浜田市学校図書館活用教育研究指定校 公開授業　研究協議	社会科 平成 28 年１２月２日（金）２年教室
研究の視点 ①エキスパート活動に使う資料を生徒に作成させたことはジグソー班での話し合いを深めることにつながったか。 ②協調学習の手法を取り入れたことは，九州地方の地域的特色について多面的・多角的に考察する手立てとして有効であったか。	

●①について
・学習課題を決めるのがポイントではないだろうか。
・エキスパート活動で使った資料自体は，それぞれが自分のテーマについてデータや写真など見てわかりやすいものを選んでつくっているようだった。ただ，エキスパート活動で何を話せばよいのかわかっていない班があった。
・資料は練って作るべきではないだろうか。３つの分野それぞれに特化された情報を集めて深められればよかった。また，資料の配置が揃っていればもっと比較しやすい。
・作成してみないと「気づきが生まれる資料」になるかどうかがわからない。

●②について
・どのデータをとるか自分で決めるため，主体的な活動になる。
・ジグソー活動が読み合わせのようになっていたので，一緒に話し合って考えられれば深まりが出たのではないか。中には「〇〇君も言ったけど…。」と結びつけて考えたり，付け加えたりしようとする発言が見られた。
・データだけを見ながら語り合うときの方がいろいろな気づきが生まれるのではないか。
・情報をうまく結びつけきれていないところもあった。生徒のもっている力に差がある。しかし，だから聞き合ったり，相手に自分の言葉で説明したり，という活動もできていた。
・資料をもとに話し合う，という活動は慣れないと難しい。
・クロストークでホワイトボードに挙げられた気づきを見ながらつながりを発見するのはわかりやすい。そのまま流さずに，質問したり，深めたりする場面があればよい。
・ホワイトボードは班ごとの掲示よりも県ごとにまとめたほうがよいのではないか。
・例として弥栄町を先生が出したが，昨年取り組んだヨーロッパについての取組を想起させてもよかったか。

●③その他について
・ホワイトボードの使い方について。文字が小さく雑で読みにくい。
・ホワイトボードを読むだけの発表になっているので，言葉を付け加えて聞く人にわかりやすく言えるようになるとよい。
・資料収集については三中，弥栄小，市内図書館２カ所から集めた。生徒１人につき３冊以上あるように，と考えた。

●指導助言●
〈北川　史信　指導主事より〉
・生徒が資料を作成した段階で，ある程度いろいろな情報が目に入りつながりも見えていたのでは。
・協調学習としては，生徒はあちこちの県についての気づきを発表しており，議論が深まっていない。共通の話題性が必要だった。
・プラスの部分だけでなく，マイナスの情報にも目を向けさせてみると可能性が広がる。例えば，鹿児島には桜島があり，さつまいもが特産であるが，これは土地がやせていて米が穫れにくいということである。
・生徒への問いかけとして，鹿児島に住みたいかどうか，理由をつけて述べさせてみる。個人で考えたことをグループで話し合い，意見を一つにまとめるような活動をするのも一つの手である。同じ「住みたい」でも理由が異なっていたり，他の意見を聞いて「なるほど！」と感じたりすることで深まりも生まれる。

〈澤田　出　指導主事より〉
・弥栄中の組織としての積み重ねができている。（プレゼンテーション，調べる学習…）
・資料，情報量が多い。
・産業，自然環境，生活文化と視点が多かったのではないか。
・協調学習と言うことで３つのテーマに分ける必要性があったのかも知れないが，テーマを教師が絞って設定することも必要である。